

令和5年度〔学校評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
47	川崎市立 宮内小学校	陸田由喜子

学校教育目標	今年度の重点目標
「心豊かにたくましく生きていく人間の育成」 ○おおらかに 一人一人が思いや願いを表現し、学び合う ○たくましく 自ら課題をもち、すすんで取り組む ○なごやかに 互いに認め合い、協力する	・子ども一人一人に居場所がある安全・安心な学校づくり ・大人も子どもも豊かに学び合う学校づくり ・地域に開かれ、地域と手を結ぶ、信頼された学校づくり

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 明日も行きたくなる学校 楽しい学校生活	・子どもたちが、安心して楽しく過ごせたり、話ができたりするような学年・学級づくりをめざす。 ・担任だけでなく、学年や学校全体の職員がチームで子どもたち一人一人を見守ったり指導したりすることで児童理解に努める。	学校生活の様々な場面でできるだけ多くの児童が楽しく活動に参加したり、力を発揮したりすることができるよう、学習面、生活面にわたって活動の在り方や声かけを工夫してきた。今後も学習面でのつまずきや生活面での困り感を的確に把握し、心の充実を図っていきたい。	児童一人一人が楽しく学校生活を送るためにも自己肯定感や自己有用感を育てていくことが大切であると考える。今後も学校生活の中で児童が「わかった」「誰かの役に立った」と思えるような場面を増やし、全員が自分らしく輝けるような指導、支援に努める。
2 子ども一人一人に居場所がある安全・安心な学校づくり 人権尊重教育	・「自分を大切にすること」「他者を思いやる心」の育成を図り、いじめや仲間外れについては、絶対に許さないという毅然とした態度で全職員が臨む。報告連絡相談を充実し、いじめを許さない学校風土づくりを進める。 ・挨拶をはじめ、言葉を大切にすることにより、よりよい集団作り、友達関係づくりを進める。	より良い友達関係作りのために共生＊共育プログラムを実施したり、SOSの出し方受け止め方教育や効果測定、学校生活アンケートの実施等によって、いじめの早期発見、早期解決に努めた。 気持ちのよい挨拶ができるよう児童会の取組と共にPTAによる挨拶運動を継続したことで挨拶の輪が広がった。	今後も日常の観察やアンケート等により、いじめの早期発見、早期解決の取組を進め、いじめを許さない学校風土づくりを推進する。共生＊共育プログラムやSOSの出し方受け止め方教育を定期的に行うことで相談しやすい環境を作る。 挨拶運動、交流活動などを通してよりよい人間関係をつくる。
3 子ども一人一人に居場所がある安全・安心な学校づくり 教育相談	・児童一人ひとりの理解に努めるとともに、個別に指導・支援が必要な児童を教職員全体で支える。 ・児童の個性や特性に合わせて安心できる学習環境作りに努める。 ・児童や保護者が話しやすいような環境づくりを進めるとともに連絡・相談に誠実に対応し、信頼関係を構築する	児童、保護者の思いや願い、希望などをとらえたうえで、支援ができるよう、職員間で共通理解を図った。特別な支援を必要とする児童の支援についての相談も支援教育コーディネーターが中心となり行った。教育サポーターを積極的に取り入れ、一人一人への教育ニーズへの対応ができるように努めた。家庭との連携を心がけ、事故、トラブル等の速やかな連絡、家庭からの相談への誠実な対応に努めた。	支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を充実し、全職員が情報共有して支援に当たれるようにする。学生サポーター、特別支援サポーターなどの人材の確保を行う。 今後も学校生活アンケート後に個別の聞き取りを行うなど児童自身が相談しやすい機会を設定すると共に、保護者へ本校の特別支援や学校巡回カウンセラーについての周知を促進する。また、教育相談日を月に一度設定し、相談しやすい環境作りを進める。
4 子ども一人一人に居場所がある安全・安心な学校づくり 環境整備	・校舎内外の環境整備に努め、気持ちのよい学習環境づくりを進める。	校務員の方々の協力もあり、児童にとって、安全で安心できる環境整備に努めることができた。 感染症防止のため、換気や衛生面など児童の健康を守る取組を継続して行うことができた。	日頃から整理整頓、清掃を心掛け、より安心・安全な教育環境作りに務める。掲示物についても、教育効果をあげる取組にしていけるよう、さらに意識向上をはかっていく。
5 豊かな学びを育む学校 授業改善 研修・研究の充実	・子どもの学習に対する関心・意欲を大切にし、分かる授業や楽しい授業の工夫に心がける。 ・校内外での研究や研修を通して、教職員としての資質向上に努め、子どもたちへの教育活動にいかす。	基礎基本の充実を図るために、わかる授業を目指して教材研究や学習活動の工夫を行った。 「学び合い、高め合い、笑顔あふれる宮内っ子」との校内研究テーマのもと、自分から課題を見つけ解決しようとする力の育成に努めてきた。各学年ごとに講師を招いて研究授業・協議を重ね、教材研究・授業力の向上に努めた。	複数教諭による指導や少人数指導などの指導体制の工夫をしたり、実態に合わせたワークシートやヒントカードを用意したり、GIGA端末を活用したりするなど個別最適な学びの保証にむけ工夫していく。 校内研究を通し、経験や体験を充実させ、児童の探究的、協働的な学びの姿勢の育成に努めると共に、教員の授業力向上に努める。

6	豊かな学びを育む学校 児童の主体的な取組・ 交流活動	・学校・学年行事、特別活動等において児童の主体的な活動を推進する。 ・学校生活の様々な場面で交流活動を意図的に取り入れ、学年内や異学年との交流を図り、児童の主体性を育む。	係や行事、委員会やクラブ活動など、児童一人一人が活躍できる場を意識的に設けることで、工夫ある活動が見られるようになった。今後も児童がさらに主体的に活動に取り組めるような場の設定に努める。 宮内なかよしタイムや学習の様々な場面で異学年や学年内、地域の方々と交流する場を積極的に取り入れ、豊かな学びや活動の機会を多く設けることで、主体的に活動に取り組む姿が多く見られた。	児童が自ら考え、取り組む活動を大切にし、より自分らしく活躍できるよう、様々な場面で主体的な活動を推進していく。 交流の意図を職員間でしっかりと確認しながら、豊かな学びにつなげていけるようにする。また、児童が交流を通して自身の成長に気付き、自己肯定感や自己有用感を育んだり、協働するよさを感じられたりするようにする。
7	豊かな学びを育む学校 豊かな心や体の育成	・音楽朝会、読書タイム、宮内タイムの実施、養護教諭、栄養職員の指導等により、豊かな心の育成と健康の増進を図る。	音楽朝会は感染症対策を講じながら開催することができた。図書ボランティアの協力による読み聞かせにより、読書への関心も高まった。宮内タイム等で児童の体力向上の機会を設定することができた。養護教諭、栄養職員が各学年で授業を行い、豊かな心の育成と健康の増進を図ることができた。	今後も、音楽朝会を開催したり図書ボランティアと連携して読書教育の推進を行ったりして、豊かな心の育成に努める。また、宮内タイムの取組等、運動量の確保に努めながら体力向上を図る。養護教諭、栄養教諭による各学年の実態に応じた健康教育、栄養指導を今後も継続して行っていく。
8	豊かな学びを育む学校 安全教育・防災教育	・防災・防犯訓練の実施、防災教育の推進等により、児童の防災意識を高めるとともに、自ら身を守る術(すべ)についての学びを行う。 ・こども110番情報交換会や地域安全会議を開催し、学校・PTA・地域が連携して安全・防犯・防災対策を進めていく。	安全見守り隊やPTAの登下校見守り活動のご尽力もあり、交通安全への意識は高まっている。学校安全会議を開催し、児童、保護者、地域、学校で、安全について今できることを考えた。 また、学校でも様々なケースを想定して防災・防犯訓練を行い児童の「自分の身は自分で守る」という意識を高めることができた。	地域には狭い道やバス道路など、危険な場所もあるため、引き続き交通安全への注意喚起や、防災・防犯訓練等で安全教育を進めていく。そのためにも、校内でも廊下の歩行など教職員が積極的に声掛けをすることで学校全体で安全への意識を高めていきたい。今後も学校・PTA・地域との連携を推進し、安全・防災・防犯対策に取り組んでいく。
9	・地域に開かれ、地域と 手を結ぶ、信頼された学 校づくり 地域と連携した活動	・地域コーディネーターとの連携を推進し、地域の教育力(地域の素材・人材)をいかした体験的な学習を進める。 ・近隣各学校をはじめ、地域教育機関等との連携を図る。	校内研究の生活科・総合的な学習の時間を中心に地域コーディネータと連携して地域の教育力を生かした学習活動の充実を図ることができた。たくさんのゲストティーチャーを招いて生の声・本物の声を聞き、体験することで児童は自分の生活と結び付けながら学びを深めることができていた。	地域の方との触れ合いの中で、宮内のことを大切にしている気持ちや自分たちの成長を温かく見守ってくださっていることを感じながら充実した体験や経験をすることができた。今後も学習のねらいを明確にし、地域の皆様方にご協力いただきながら地域の素材や人材を生かした学習活動の充実を図っていく。
10	・地域に開かれ、地域と 手を結ぶ、信頼された学 校づくり 情報発信	・学校日よりや学年日より等を定期的に発行し、学校の情報をわかりやすい内容で伝える。 ・学校ホームページを更新し、学校の様子や近況について知らせていく。	学校ホームページを毎日更新して学校生活の様子を伝えたり、学校・学年、給食・ほけんだよりを発行したりすることを通して、地域、保護者への情報発信を行うことができた。また、学校公開や授業参観を行うことで、子どもの様子を伝えることができた。	保護者や地域の方々の理解を図りながら引き続き学校の様子を積極的に発信していきたい。情報提供を充実させ、開かれた学校づくり、学校経営の改善に取り組んでいく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが落ち着いて授業に臨んでおり、1年間の成長を感じた。グループで話し合ったり、GIGA端末を活用したりしながら、課題の解決にむけ主体的に学んでいる姿が見られた。 違う学年の児童や地域とのかかわりを通して楽しみながら学習に取り組んでいる様子が見られ、素敵な取組だと思ふ。 挨拶運動は子どもたちが「看板を作る」など、工夫しながら行っているところが良いと思う。今後も継続して行ってほしい。 安全見守り隊の方々の方が優しく接してくださるおかげで、年度初めは挨拶を恥ずかしがっていた子もいたが、徐々に慣れて挨拶ができるようになってきている。今後も保護者や地域など大人の働きかけで子どもたちの挨拶が増えるとうい。 学校目標に向け、先生方が一体となって取り組んでいる様子を感じる。学習の足跡が見える掲示物など、教室環境も工夫していた。 SOSの出し方受け止め方教育など、子どもたちが困ったことや悩みを気軽に相談できる環境作りを今後も推進してほしい。 ホームページが毎日更新され、子どもたちの学習や生活の様子がわかり、家庭での会話に役立っている。離れた場所に住んでいる祖父母も閲覧するのを楽しみにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援教育コーディネーターや学校巡回カウンセラーが周知され、児童や保護者からさまざまな教育相談を受けることができた。それらの対応を通して課題の解決に向け児童、保護者、学校との相互理解や協力体制を深めることができた。また、関係諸機関との連携を積極的に図ることで児童理解を深めより良い支援の在り方を探ることができた。今後も児童や保護者と信頼関係を築きながら、子どもたち一人ひとりを大切にしたい児童指導、支援の充実を図っていく。 各教科の確かな学力の定着、学習活動の充実とともに、豊かな人間性の育成を目指して、学校・保護者・地域が一体となって取り組むことを今後も大切にしていきたい。また、担任が一人で悩まず、学年や級外職員を含めたチームで考え、対応することが定着してきている。より一層の個に応じたきめ細やかな支援の充実のため、人員の確保や指導形態の工夫に努め、個別最適な学びの実現に向け努力していく。 地域コーディネーターとの緊密な連携を継続し、地域の教育力を生かした教育活動をより充実させていきたい。ゲストティーチャーとのかかわりや体験活動を通して豊かな学びを実現させるとともに、市制100周年やキャリア在り方・生き方教育とも関連付け、子どもたちが地域に愛着をもち、協働していこうとする姿勢を育んでいく。 職員全員で学校アンケートの結果についての考察を行い、次年度にむけ成果と課題を共有し、教育活動のさらなる質の向上のため、生かせるようにした。これらを新年度当初に確認しあい、新年度の重点を意識した取組がスムーズに行われるようにする。今後も学校教育目標の実現に向け全職員一丸となって取り組んでいきたい。